

ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)

2017年 台風21号三重県玉城町 緊急支援 活動報告書

実施期間 2017年 11月9日 - 12月4日
活動場所 三重県玉城町

[オフィシャルサイト] <http://pbv.or.jp/>

[英語サイト / English site] <http://pbv.or.jp/en/>

目次

□ 2017年 台風21号 被害状況 _____	2P
□ 三重県・玉城 町被害状況 _____	2P
□ プロジェクト概要・実績 _____	3P
□ 活動カレンダー _____	3P
□ 活動内容 _____	3P
□ 住民の声 困りごとと対応策 _____	4P
□ ご協力いただいた企業・団体 _____	4P
□ 収支報告 _____	4P
□ 活動を振り返って _____	4P



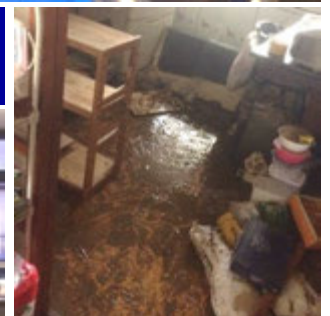
玉城町のゆるキャラ
城之介(左)とたままるくん(右)



人こそが人を支援できるということ



PEACE BOAT Disaster Relief Volunteer Center



2017年 台風21号 被害状況

5府県に及ぶ広域被害！

日本各所に被害をもたらした台風21号は、1991年以来となる超大型台風の勢力を保ちつつ日本列島に上陸。10月22日から23日にかけて、近畿、東海地方を中心に関東地方までの5府県(大阪、京都、和歌山、三重、埼玉)へ甚大な被害を及ぼしました。5府県のなかで、10市町が被災し4市町は災害救助法が適応されています。



全国の主な被害状況		
人的被害	死者	8名
	負傷者	215名
住家被害	全壊	3棟
	半壊	15棟
	一部損壊	630棟
	床上浸水	2456棟
	床下浸水	3426棟

消防庁より(2017年11月6日現在)

三重県・玉城町 被害状況

三重県内では記録的な大雨となり伊勢市では、48時間の降水量が539mmとなり観測史上1位の値を更新しました。その影響を受け、三重県玉城町でも家屋に対する浸水被害が発生しました。毎年増え続ける風水害は、ときに家屋に見えにくいダメージを与えます。被害にあった住民は、なかなかこの事実気付けません。今回支援に入った玉城町でも、多くの家で畳やフローリングまで浸水するかもしれないギリギリまでの被害が発生し、ひとたび水が引くと一見何もなかったように見受けられました。



三重県内の主な被害状況			
人的被害	伊勢市	死者・負傷者	1名
	玉城町	死者・負傷者	2名
住家被害	伊勢市	大規模半壊	13棟
		床上浸水(半壊、一部損壊を含む)	387棟
		床下浸水	667棟
	玉城町	大規模半壊	3棟
		床上浸水(半壊、一部損壊を含む)	269棟
避難者数(最大)	伊勢市	避難者数	564世帯(1262名)
	玉城町	避難者数	20世帯(37名)

三重県伊勢市(2017年11月30日現在)/三重県玉城町(2017年11月18日現在)



河川の氾濫により、崩れてしまった土壁



水を含んだ断熱材が剥がれ落ちている様子



氾濫により崩れてしまった河川敷

プロジェクトの概要・実績

【活動期間】 2017年11月9日～12月4日

【活動場所・内容】

- ・玉城町災害ボランティアセンター運営サポート(ボランティア受付、マッチング、オリエンテーション、送り出し、個別訪問調査、情報処理、書類作成 等)
- ・浸水家屋の被害状況確認(床下流入土砂の確認、断熱材や柱の被害確認)、浸水被害の対処方法アドバイス

【床下確認依頼 対応件数】 **111** 件(協力団体による活動件数も含む)

【個別訪問調査】 **94** 世帯

【ニーズ内容】 床下状況確認、床下水抜き、断熱材の取り出し、床下乾燥対応、床上・床下清掃、家財移動、災害廃棄物の撤去。

活動カレンダー

10月	22日	超大型台風21号上陸。近畿、東海地方を中心に甚大な被害を及ぼした
	27日	玉城町社会福祉協議会が「玉城町災害ボランティアセンター」を開設
11月	9日	PBVが加盟する「震災がつなぐ全国災害ネットワーク」へ、玉城町災害ボランティアセンターより要請があり、スタッフを派遣
		同支援団体の「風組関東」と被害状況の確認
	10日	玉城町災害ボランティアセンター運営サポート開始
	23日	被災地域の各区長へ、ニーズ依頼受付終了のお知らせと、チラシ回覧による住民への周知を依頼
	30日	玉城町災害ボランティアセンター閉所
12月	4日	業務引継ぎ、PBV現地支援活動終了

活動内容

浸水した家屋は、柱や断熱材などに水を含み、ほおっておくとカビや悪臭、腐食やシロアリなどの原因となります。今回も「水が引き、乾いている」と思われた床下の断熱材に、大量の水が含まれているケースもありました。

近年の水害では、地域に根差す社会福祉協議会(以下:社協)がボランティアの窓口として災害ボランティアセンター(以下:災害VC)を立ち上げ、住民ニーズに対応します。しかし、社協職員は福祉業務を専門としており、浸水した家屋がどのような被害を受けるかを知っている人はほとんどいません。

そこで、全国各地で水害対応を行なう災害支援団体が地元からの応援要請に基づき支援に入っていきます。今回はPBVが加盟する「震災がつなぐ全国ネットワーク」に対し、地元社協からの応援要請がありました。活動現場では、「風組関東」や「DRT三重」の方々と協力し、災害ボランティアセンターに集まる「床下確認依頼」に対応していきました。また、災害VCのニーズマッチングや活動に関する事務作業などの運営支援も行いました。

住民からは、「確認してもらって、大丈夫と言われると安心する」「どこに相談してよいのか分からないので、相談先が出来てありがたい」「親身にひとつひとつ説明してくれるから、やらないといけないことがはっきりして良かった」などの言葉を頂きました。



玉城町災害ボランティアセンター



支援団体と協力し床下の状況確認



住民へ床下状況の説明

住民の声 困りごとと対応策

今回の水害では、土砂の流入が少なく水の引きが早かったため、被害の状況が把握しづらい状況

Q: 床下の消毒は必要なの？

A: 玉城町では消毒剤としてベンゼルコニウム塩化物液(逆性石鹼)が配布されていました。住民の経済的負担を増やさないために、町役場から支給された消毒剤で対応するようにしました。カビなどに対して殺菌効果があるためです。消毒は行なう必要があるとお伝えしています。

Q: 床下はいつまで乾燥させたらいいの？

A: 浸水被害を受けた家屋は1ヶ月ほど乾燥が必要だと言われています。風通しの良し悪しで乾燥状況は変わるため、今回は送風機を使い強制的に換気を行なったケースもありました。また床下の柱部分の水分量を測定する機材を使い、水分量が基準値を下回っていれば最後に畳を戻しても大丈夫とお伝えしました。

Q: 床下にカビが発生している状況で、扇風機を使ったらカビが飛散しないの？

A: 強い風を当ててしまうとカビは飛散します。通常であれば乾いた風を通す為に、床板を開け乾燥を促しますが、カビが生活範囲に飛散するのはよくありません。カビが発生している家屋では、床板を閉じた状態で送風機を活用しました。床下の通風口近くに送風機を設置し通風口を通して外へ排気するようにしました。

ご協力いただいた企業・団体 (順不同・略称表記)

玉城町役場／玉城町社会福祉協議会／玉城町災害ボランティアセンター／みえ防災市民会議／風組関東/DRT三重／防災・災害ボランティア かわせみ

◆ 寄付・助成団体

震災がつなぐ全国ネットワーク(日本財団)/東京海上日動火災保険株式会社「Share Happiness倶楽部」/ロバート・ウォルターズ・ジャパン/東京海上アシスタンス/信頼資本財団

その他、PBVサポート会員の皆様からの会費を活用させていただきました。個人情報の観点から、お名前のご紹介は控えさせていただきますが、お一人おひとりの皆様に心より感謝申し上げます。

収支報告

収入	一般寄付	10,711
	助成金など	346,539
	合計	357,250

※不足の171,114円については、東京海上日動火災保険株式会社の社員有志による寄付制度「Share Happiness倶楽部」様からの寄付を充当させていただきました。

支出	人件費	181,825
	車両費	81,000
	旅費、交通費	242,128
	通信費	9,941
	消耗品・備品費	12,714
	合計	528,364

活動を振り返って

台風21号 三重県玉城町
現地コーディネーター 公門 寛稀



台風21号が発災した時は、九州北部豪雨災害の支援活動中で福岡県朝倉市にいました。三重県が被害に遭ったことは知っていましたが、活動に入った玉城町の存在は恥ずかしながら知らず現地入りから初めて知りました。今回の水害は、メディアでの取り上げも非常に少なく認知度は低いとは思っていましたが、同じ玉城町内の方でも浸水したことすら知らない方がいたことには驚きました。町内でも浸水被害を受けた地域が限られていたことや、夜間帯での浸水と、水の引きが早かったのが関係していたのかもしれませんが。

また、玉城町は災害がない町として今まで過ごしてきたためか、住民たちが「この町でこんな事が起きるとは」と、口をそろえて言われていました。被災地では、よく耳にする言葉です。残念ながら日本では、毎年どこかでは災害が発生し、災害VCが立ち上がっています。災害対応経験がない中で、災害VCを運営していく社協の方も大変苦労されていました。私自身も活動をする中で、住民からのニーズ依頼数に対し、今回の災害に対する認知度の低さもあり、ボランティアが集まるのかと心配していました。しかしボランティア募集も玉城町内に限られたにも関わらず、何度も参加して下さる方や地元企業からのボランティア派遣など、地域の力強さを感じる事が出来ました。

一方で今回の活動で改めて外部支援の必要性を感じました。地元だけでの対応には限界があり、住民の気付かない部分についてのアドバイスや相談にのることで安心してもらえることを実感しました。また他団体との協働により、支援を実施することができ多くのことを学ばせていただきました。今後も私たちにできることの引き出しを増やして、住民のみなさんの力になれるように努力し続けていきたいと思えます。

最後に、温かく私たちを受け入れてくださった玉城町の皆さんをはじめ、活動を支えていただいた方々にこの場を借りて心より御礼申し上げます。

寄付で応援してください！

災害発生時に、いち早く被災者支援活動を開始する為の「支援金」を募集しています。

PBVでは、国内外の自然災害における緊急支援を行なう為、緊急支援体制の構築や、災害ボランティアの人材育成プログラムを実施しています。これらの活動は、ご寄付や助成金等によって運営されています。厳しい状況に置かれてしまう被災者への支援や、今後想定される大規模災害への取組みを実現させるためには、皆さまからのご支援が必要不可欠です。どうか、ご協力をお願いいたします。

●サポート会員(小口寄付制度)

[個人] 1口 5,000円/年

[法人] 1口 100,000円/年

※2口以上のご協力も可能です

●会員特典

- ・ニューズレター「START」と年次報告書をお送りします
- ・各種講演会・イベントを優先してご案内いたします
- ・会員同士の集いの場にご参加いただけます
- ・各セミナー、トレーニングが会員価格で受講できます

ご寄付はどのように役立てられます

炊き出し



栄養不良
の改善・予防

避難所サポート



最低限の
避難生活の維持

家屋清掃



生活再建
への一歩

※実施される支援活動は、被災地状況や被災者のニーズに合わせて展開されます

●お申し込み方法

「PBVサポート会員 申込書」をご提出、またはお電話にてご連絡をいただいた上で、下記まで年会費をご入金ください。

郵便振替

郵便振替口座: 00120-9-488841(※下6桁は右ツメ)
口座名: 社)ピースボート災害ボランティアセンター

クレジットカード

VISA、MasterCardを通じた送金は、下記ホームページから
<http://pbv.or.jp/support-member>

ゆうちょ銀行

ゼロイチキュー店(019店)当座 0488841
社)ピースボート災害ボランティアセンター

その他 取引先銀行

三菱UFJ銀行、みずほ銀行

その他の募金方法に関しては、下記ホームページをご覧ください。

<http://pbv.or.jp/support-member.html>

「ピースボート災害ボランティアセンター(PBV)」

PBVは、東日本大震災への継続的かつ大規模な支援活動を展開するため、2011年4月に、国際NGO「ピースボート」が設立した一般社団法人です。ピースボートが1983年より行ってきた国際交流の船旅、そして1995年の阪神淡路大震災以降の国内外の災害支援のノウハウとネットワークを活かし活動しています。

現在は、緊急時の災害対応を軸に、災害ボランティアの育成や普及活動を実施しています。また、宮城県石巻市では復興支援に留まらない、地域課題にも積極的に取り組んでいます。

ホームページ <http://pbv.or.jp/>

2017年 台風21号三重県玉城町 緊急支援活動報告書

発行: 一般社団法人 ピースボート災害ボランティアセンター
編集: 公門寛稀、上島安裕、小林深吾、辛嶋友香里
発行日: 2017年12月30日

この刊行物に関するお問い合わせは下記までお願いします。
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-13-1-2F-A
TEL: 03-3363-7967 FAX: 03-3362-6073
E-MAIL: kyuen@pbv.or.jp
URL: <http://pbv.or.jp/>